

第 15 回 高原地区街づくり協議会 議事録 (要旨)	
開催日時	令和 2 年 1 月 23 日 (木) 18 : 30~20 : 10
開催場所	福住公民館 大会議室
出席委員	11 名
欠席委員	市本委員
事務局	岡本公室長、岩田課長、藤田主査 山中参与、まなび推進課・高山課長、
議事内容	
<p>1. 開 会 -18:30-</p> <p>2. 市長挨拶</p> <p>大変お忙しい中第 15 回高原地区街づくり協議会にご参集いただきありがとうございます。</p> <p>本日より天理大学の地方行政職員養成プロジェクトの皆さんにオブザーバーとして参加いただいている。また旧 25 号線の拡幅を県の方で進めて頂いているが、委員の木村所長様以外にも奈良土木の方から傍聴を頂いている。ありがとうございます。本日はお話ししなければならぬ事項がたくさんあり、今後の福住の活性化に教育、地域公共交通など、暮らしの面も含めてこの高原地区をいかに持続可能な形で発展させていくかということについて、大きな節目となる議論がある。ご審議をよろしく申し上げます。</p> <p>3. 議 事</p> <p>(1)福住校区における教育について</p> <p>・小規模特認校について</p> <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年度からの特認校生の人数推移と今後の見通しについて 令和 2 年度については福住小学校特認校生 25 名、全校 57 名。 1 年生 11 名、2 年生 10 名、3 年生 6 名、4 年生 7 名、5 年生 12 名、6 年生 10 名、特別支援 1 名／全校生徒に占める特認校生の率 43.86% 令和 2 年度より福住中学校への特認校制度導入開始。1 年生 1 名が入学、全校 17 名。 1 年生 5 名、2 年生 4 名、3 年生 6 名、特別支援 2 名 <p>会 長</p> <p>若干補足をしますと、令和 2 年度から新たに特認校で来られる方が急増する。これまでコスモス分団で来られていた方 11 名に 14 名が追加になり、ほぼ倍増となる。交通手段についても 10 月からは変更が予定されている。それについては (2) の地域公共交通の部分で説明したい。</p> <p>当初この特認校制度の導入に当たって協議会で議論させていただいた際にもお話をしたが、学校を守っていくことは将来の移住定住の促進にとっても必須条件だという中で、概ね 50 名</p>	

程度の規模を維持できるかが目安になるだろうとお話した。そこからすると57名ということで、一気に多くなっている。小規模の特性を生かすには各学年12名前後くらいがいいかと思うので充足したという見方もできるが、少し割合としては高くなった。

ただ、これは嬉しい悲鳴でもあって、小中一貫校というのを肯定的に捉える方が平野部の方でも多かったということ。コスモスで来られた方が希望すれば中学まで進めるようにと中学の方も今回から特認校を開始した。PTAの皆さんとのお話から役割分担等といったところはしっかりと調整していかなければならないところはあるが、一定の質の高い教育を保つためには規模も重要であるということで、そういった意味ではよい展開だと思う。英語教育などこれまで以上に特性に力を入れつつ、令和3年からの一貫校化に向けて、我々としても準備をしていきたい。

ちなみに小中学校を合わせた形というのがどのようなものになるかについては、2月末の校区区長会と小中のPTAでお話させて頂こうと思っているが、合併ということで小学校の手洗いを洋式化することに加え、各教室についても市ではなかなか改修予算を当てづらいつころ、統合に当たって国の制度を利用できることから進展が見込まれる。一部ではパソコン教室がなくなるなどの声もあると伺っているが、こちらについてはICT機器が一人一台当たるようになるので、教育環境としては向上するものと考えている。

委員

小規模校がどこまでを小規模というのかは難しいところがあるかと思うが、仕組みとしては地域の人口が増えて小学校が大きくなっていても特認校であり続けられるのか。

事務局

今のところは市長の話にもあったように各学年12名を上限と考え市の要綱にも定めているが、これは市としての基準であって、特認校制度そのものの上限ではない。

会長

これは意見が分かれるところかと思うが、中には本来福住にお住まいの方とのバランスが崩れてしまうと思われる方もいるだろう。私も半分弱くらいが妥当かとは考えている。来年度の時点で43%くらい、ちょうど半分弱になる。そこは学校の在り方の議論になるが、今の伸びている勢いのうちに移住・定住をしっかりと取り組んで、そもそも福住に住む子どもたちを増やしていくという部分との合わせ技かと思っている。その結果として人数が多いという状況になればよいと考えている。

・福住中学校の利活用について

会長

つづいて中学校の利活用について。今回の一貫校化については学校を持続・継続可能な形で発展させていこうということが一番のポイントだが、結果として中学校の校舎が空いてくることになる。これは地域の皆様にも非常に愛着のある校舎なので、単に空き家や倉庫ということ

ではなく、活性化の拠点としてしっかりと活用していきたいと考えていた。また、県と高原地区の連携協定の中で、今どういった動きがあるかというのを整理し続けてきていたが、今までの案件だけでは少し弱い、核になるようなプロジェクトが欲しいという県からの指摘があった。25号線の拡幅もして頂いているが、高原地区の活性化の県市連携の流れの中でやっていただいている部分もあり、ぜひしっかりと考えていきたいという中にこの中学校の話が出てきた。

基本的に調整区域であり、それがこれまで高原地区でプロジェクトをしようとするときにネックになっていた。現在県のまちづくり推進局との間ではこの中学校を核とした地区計画を立てて、ここに関しては活用可能なエリアとしてはどうかと議論をしている。ここをやっていくにあたって、椽のメンバーの皆さんでもアイデアのご議論を頂いたということで、ぜひこの機会にご紹介を頂ければと思う。

椽 中島氏

椽（たるき）という活動をしている中島と申します。中学校の活用アイデアについては、提案理由は資料をご覧くださいと思うが、我々は今の状況に危機感を頂いて、移住定住を促進していくという活動をしている。その中でこの中学校というのは地域の中心でみなさんから愛されている施設なので、そういった意味で地域の方の思いがきちんと伝わる形で、なおかつ移住定住を増やしていく施設ということを考えて。

大きく3つの提案をしている。1つ目はこの後、森のようちえんの岡本さんからお話があるかと思うが、校庭のグラウンドをプレイパークにするというもの。これは野外の冒険あそび場で、この地域は学童がないということでなかなか保護者の方も働きに出づらいいということもあるので、平日は体験型の学童、また休日はこれを目指して福住校区まで遊びに来てもらえるような施設というものを想定している。管理としては基本的にはプレイワーカーという管理者がいるが、それ以外にも地域の方に来てもらって、子育てをされている方もお子さんも、多世代で交流しながら安心して過ごすことができる場所になればいいと考えている。2つ目が地域の仕事・伝統を繋ぐ継業・継承の拠点です。私もまだこちらに来て2年くらいでまだまだ何も分かっていないが、かつてこのあたりには茶畑があり、私の今の家も以前は茶工場があったりと、そうしたことが残っていることがとても素敵なこの地域の魅力だと思っている。お茶に限らず、米などの農業や林業、木工にかかわる器具や機械について古くから残っているものがあるのではないかと考えている。その技術や人を伝承していくというのも重要だと思っていて、そうしたものを繋いでいくことができないかと思っている。逆に移住者からすると、そういったことにチャレンジしたいという方はいるが、何も縁もゆかりもない土地では場所もなければ人手もなく、機材を買うにもかなり高額な費用が発生してしまうということもある。そのコストが安くなって新しい人がチャレンジしやすくなるということと、眠っている財産が活用されて、それが少しの収入に繋がったりといったことの循環ができればいいのではないかと考えて

いる。3つ目は多世代が交流する拠点としてのカフェで、いろいろな世代の方が集まって交流できる場所があれば一息つくこともできるし、また、観光でいらっしやった方もそこを拠点に周遊してもらって休憩場所としての機能であるとか、市街地の方でも進められているこども食堂などの活動拠点にもなりうる場所があればいいのではないかとということで提案させていただいた。以上です。

会 長

続いてお話にあった説明の補足の部分を、岡本さんをお願いしてよろしいでしょうか。

森のようちえん 岡本氏

はい。私も椽のメンバーでもあるのですが、先ほどの校庭グラウンドを活用したプレイパーク冒険あそび場の提案が、私たち森のようちえんウィズ・ナチュラの保護者のお母さんから出ている。冒険あそび場というのは、東京や横浜などの都市部で広がっているが、子どもが自分の責任で遊びきるのを大人が見守る場所。奈良ではあまりなく、それを作りたいという提案をさせていただいた。先ほどの説明にもあったが、冒険あそび場に加えて、学童という機能は自分たちのように仕事をしている母親にとっては必要だと感じている。また私自身も子どもがいるが、その子を遊ばせるために和歌山のプレイパークに通っている。他の方も県外からプレイパークを目指してやってきて週末を過ごされたりということもあるので、そうしたことができる場所としてぴったりだということで提案させていただいた。なお、資料にあるその他の提案についても、森のようちえんの保護者から出させてもらっている。

会 長

ありがとうございます。そちらについては、各論としていろいろとご議論をいただいているということでご確認頂ければと思う。

私どもも自主提案があればぜひ伺いたいということで、町から町へと市のホームページでご案内し、中学校の校長先生からも一部アイデアを頂いた。概ね多世代交流であったり、農との組み合わせや伝統文化の継承という点では共通しているなという風に思っている。

ただ、率直に申し訳ない事情もお話させていただくと、本プロジェクトにあたってそもそも市にあまり財源がない。これから学校施設その他を盆地でも整えなければならないという事情もあり、公費としては小中を一緒にして小学校の施設を整備するということがほぼ手一杯だ。中学校の利活用に関しては防水が傷んでいたりするため、最初の躯体の部分は我々で少し手を入れなければならないと思っているが、その後補修・改修をしていく際には若干の補助はできても、そこから先については独立採算、ビジネススペースで完全に自力でできる方をお願いをしていかざるを得ない。他方で、最近の高原一带を見ておきますと、滋賀や伊賀などでしっかりと取組をしてらっしゃる方もいるので、決して不可能な話であるとは思っていない。

実際に見に来られた方の中にはデータセンターとして使いたいといったご提案もいただいた。一定の雇用も生まれるだろうとのことだったが、そういった形のものにしてしまうと、セキュリティの関係で中には関係者しか入れないということになってしまう。これは空き家にす

るよりはいいのだろうが、地域の活性化であったり、地元で愛されてきた施設の利活用としてはいかがかなという風に考えている。市外・県外からも多くの方が訪れて、地元の皆さんとも交流できるような場所というのが今目指している形だ。

そこでもう一つご紹介したいのが別添のもので、これは本市のブランディングプロデューサーとして地方創生の関係でこの数年プロデューサーに入っていたデザインスタジオ graf の服部滋樹さんという方からの提案だ。ライフスタイルブック「高原からの便り」を作成する際に一緒にさせていただいた方でもあるが、いろいろな地域で活躍されている事業者さんをよくご存じでもあるので、今声かけできる場所をお願いしていたら一旦こういった提案を頂いた。本人にお越しいただければ一番良かったが、日程の都合で困難ということで私の方から紹介をさせていただく。

ビジネススペースでとはいえ、単にテナント的にやるというよりは、全体に連なるコンセプトがなければ一つの拠点としての発信・集客は難しいだろうということで、「学び」というのがコンセプトのアイデアとして出てきている。その構成としては、木工とAIを組み合わせた形でラボなどをされているところや、椽のみなさんにもご提案頂いたカフェや本屋、ゲストハウス、シェアオフィスなど。こういったものに加えて野外体験・農業体験、そこまでできるかという議論はあるだろうが、さらにエネルギー関係やクリエイティブ事業、これはデザイナーさんなどがクリエイティブな活動をされるシェアオフィスとして使っていくという部分であり、また、いざというときの防災拠点にもなればというイメージで提案を頂いている。

これは、このとおりでなければならぬというものではなく、我々としては一つの実施提案を頂いたと考えている。地区計画を立てていくにあたっては中学校のみでは不可だという指摘を受けた。3つ以上の区画が必要だが、JAさんが隣に古い木造倉庫を持ってらっしゃって、ちょうど今空いている。まだきちんと我々でも議論ができていないが、まず地区計画にご協力を頂けないか、そちらにも接触をしようと思っている。というのも、JAさんの方でも今再編をされていて、二階堂支店への集約を進められている。そうなってしまうと福住のJAが今ほど人がいない寂しい状況になってしまい、福住の中心部の雰囲気もまた変わってしまう。巻き込めるものならば巻き込んでいきたい。また事業としては全く変える必要はないが、郵便局の方にも地区計画についてはこれからご協力をお願いしていきたいと思っている。

地区計画というのが何かと言うと、本来こちらは市街化調整区域のため建物等の用途変更が難しい地区だが、目的をきちんと限定して整理し、区画を決めて目的に即した利用をするのであれば認められるという仕組みだ。県との関係でいえば、25号線を下ったところに奈良歴史芸術文化村という拠点施設を作っていただいている。地方創生の取組として、県市連携の中でゲストハウスであったり、アーティストの活動拠点になりうる要素を入れていくことができれば、文化村と政策的な連携も進めることができるということで県ともお話をしている。

あくまでイメージだが、あまり改装費用がかけられない点を考慮すると、極力躯体はそのまま生かし、内装の部分で工夫ができればと考えている。実際にここに関心を持っていただいて

いる人がいるのかと言えば、まだ完全に決まってはいないので大まかなご紹介になるが、近々見に来られる方では、絵本や芸術などにこだわった本屋さんを経営されている方、文科系の方のワークショップ企画なども実施されていた大阪の本屋さん、そして提案のあった graf の服部さんのデザインオフィスなどのお話を頂いている。施設も大きいので最初から全て利活用できるかと言えば疑問もあるが、服部さんの提案以外でも、これから先、実際の事業者さんやマルシェに参加されている事業者さんの中に、ぜひチームとして一緒にご参加いただけるという方がいらっしゃれば絶賛募集中である。市として経常的に補助することはできないが、場所代はそう多く求めるつもりはないので、そうしたところも含めてやりたいという方を募っていきたいと思っている。ぜひ皆様にもお声かけをお願いしたい。

また、メンバーが出そろったところでこの街づくり協議会に諮らせていただいて、地元の皆様にも遊休施設の活用や将来の雇用創出・交流人口増加も含めた今後の地域活性化という点でこうしたメンバーで進めさせて頂いてよろしいかということを確認させていただいた後に議会にもお話をさせて頂きたいと思っている。

独立採算という形になると、従来高原地域等にお越しいただく業種では概ね福祉関係か太陽光か残土や資材置き場かというものが多かった。そうすると今地域から都市部に出ている若い方が喜んで戻って来られるという雰囲気にはなりにくく、雇用を作ると言っても十分集客できるような拠点にはならないので、出来るだけ発信力のあるメンバーをしっかりと募っていきたいと考えている。概ね目指す方向は似通ったものだと思うが、皆さんの中にも良いと思われる方がいらっしゃればお声かけを頂ければと思う。

協議会でこうしたことをご説明するのは初めてかと思うので、委員の中でご意見や留意点のご指摘などございましたら積極的にお聞かせいただければと思うが、いかがでしょうか。

中島さん

先ほどのお話で具体的に候補がいれば提案をと仰っていたが、チームプレイができるのかというのがポイントになると思う。発信力があるということはそれだけこだわりがあるということで、では誰がその全体をプロデュースするのかという話もある。非常にその整合を取るのが難しいのではないかと。何人か思い浮かぶ方はいるが、誰がそれを取りまとめるかで紹介できる・できないも大きく変わってきそうだなと感じた。

会 長

組織として新しく合名会社のようなものを作っていただくのか、バラバラで契約をさせていただくのか、そういった方法については検討中だが、要点としてはどんな方に入っていただいてもいいというのではなく、あくまでコンセプトに沿って、施設としては一体として発信していくものだと考えておりますので、経営の段階では自走していただくとしても、それまでは私も含めて地元の有志の皆様を交えた協議でコンセプトを議論させて頂きたいと思っている。そういう意味では完全に唯我独尊で、何があろうと自分の世界だけを貫かれるようなタイプの方には少し適さないのではないかとと思う。

現在はいろいろな方面からご紹介をいただいたり、お声かけを頂いたりしているが、あくまでも公共施設であるので、現在のネットワークの輪の中だけで完結させてしまうつもりはない。長く空き家にしておきたくないという思いがあるので、初期で回していくメンバーについては概ねこの春くらいまでに目途をつけるとして、令和3年に合併になった暁には具体的な議論に進めていければと思う。それで全てとしてしまうのではなく、将来的にそこでチャレンジしたいという方が出てくることを考えて一定の余白を残しておきたいと考えているほか、地域の皆様が交流できるスペースというのも残しておきたい。施設のタイプは異なるが、トレイルセンターや柳本駅舎のように、事業者が管理してもらいながらも地元の方が何気なくふらっと来ることができる場所としての機能を持つておくというのを大切にしていきたいと考えている。ただ、それだけでいくとどうしても指定管理など、市が相当の予算を使いながら運営していくことになってしまうので、ビジネススペースで進めていける方をお探ししているという形になる。ですので、その方に決める・決めないは別にして、見に来たいと仰っていただける方がいらっしやいましたら我々の方に随時仰っていただければと思う。既に学校に迷惑にならないように事前にお伝えしたうえで何件か見に来ていただいている状況だ。

まだ大まかな議論の段階だが、校区の方には小中学校の統合についてのお話の際に、統合後の中学校の利活用を考えているという要点の部分のお話ができればと思っている。もちろん迷惑施設にならないように、音や車といった部分は注意をしなければならぬと思っているが、基本的に中学校は地域振興につながるような施設となるようにと考えており、一部事業者にも見学に来ていただいたりしているというところまでお話をさせていただき、概ねこういったメンバーで進めていくというのが出そろったあたりでまた校区にもお話をさせていただければと思う。何か地域の皆様からの懸念点やご希望などあればお伺いしたい。

委員

今のところはまだ具体的なお話がないので、特にはない。

会長

一部話が重複するが、学びというのをコンセプトにしたことに関連して、統合後の小中学校と、地域活性化拠点としてのこの施設の動きが、何か子どもたちにとってプラスになるような形で連動する運用ができれば理想的だと考えている。小中学校の生徒がここに入る事業者と何かコラボするというのもいいだろうし、地域内にある山辺高校なども巻き込みながらやっていければいいと思う。また奈良県との関係では歴史芸術文化村とどううまく結び付けていけるかというのでも考えていきたい。

委員

小中一貫というのは素晴らしい取組だと思っている。地域が学校を支えていく、地域と一緒に学校が歩いていくというのが小中一貫校が成功する一番のパターンだと思う。また、地域内から拠点となる施設とそれを支えてくれる人を発掘できれば、トレイルセンターのような形で地域の中で賑わいを作っていくことができると思う。

委員

アイデア募集の中で木工の機械についての記述があるが、ちょうど知人が高齢で木工をやめると聞いている。この機会に使わせてもらえればちょうどいいのではないかと思う。

会長

もし活用させていただけるのならぜひお願いしたい。中学校の技術室の機械も一部据え付けのものがあ、そのまま小学校には持っていけないものもあるので、そちらもうまく使っていければと思う。また、地域の皆様の中で協力していただける方があればありがたい。

念のために申し上げますと、通常の公共施設の活用であればこうした話は事前に出すことなく、期限を決めてプロポーザル等を行い、点数を付けてこの方に決めましたという形をとるのが多いだが、それはどちらかというやりたい方がたくさんいらっしゃる場合はうまく成立するかと思うが、こちらに関してはこちらの意図などをお話させていただきながら、声かけをさせて頂きながら進めていかなければ初動では難しいと思っております。ですので、広報でも、このまちづくり協議会でも、常にオープンにさせて頂きながら、名前を出しても構わないと仰っていただいた事業者様については全てそれをお伝えさせていただきながら議論をさせて頂きたい。決して取り合いをする場所ではないという理解で進めておりますので、その点をご理解いただければと思う。

特にその他ございませんでしたら、また状況の進捗と共に本協議会で議論をさせて頂ければと思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

・山田キャンプ場の利活用について

会長

続いて、遊休施設としてはこちらの方がはるかに先輩になってしまうが、山田教育キャンプ場について議論をさせて頂きたい。こちらは森のようちえんの皆様に、森林環境税の取組の一つとして、連携協定を結ばせていただいたうえで施設整備をいただいた。その際には地域の皆様にも相当ご協力を頂いたという事で、代表の岡本様より状況のご紹介を頂ければと思う。

森のようちえん 岡本さん

整備前は笹だらけになっていたところを刈ったり、子どもたちが安全に遊べるようにという整備を秋からしてきた。自分たちは森の専門家ではないので、どの程度まで整備すれば子どもたちが安全に遊べるかの判断が難しいということで、森林ボランティアの方や林業に携わる方に来ていただいてアドバイスを貰いながら整備を進めてきた。今週から子どもたちが入って活動をしている。藤尾さんもそうだが、山田町の方に整備に参加していただいたり、そのお知合いの林業家の方、また、Facebook で整備のお手伝いを募集したところ、市内だけでなく市外からもたくさんの方が来ていただいて、毎週誰かが整備に入っているような状態。まだまだ笹は刈りきれっていないのでこれからも整備しながら進めていくことになるが、今子どもたちが第2サイトで火おこしたり、木登りをしたり、林業家と相談ながら作ったロープ遊具で遊んだ

りといったことをしている。

会 長

ありがとうございます。

ご覧のようにこれまで行政では持ちあぐね、管理できていなかった状態の施設だ。議会でも利活用できないかというご意見はいただいていたが、費用対効果や採算の面での課題があって、行政改革の中で閉鎖させていただいたところで、使わせてもらえないかという問い合わせが外部からあったが、利活用に当たっては道路の付け替えが必要ということもあり、まったく折り合いがつかなかった。そういう点で今後も中学とは違い、事業者や法人に管理をお任せするというやり方はよほどのことがない限り困難だ。そのような中で地域の皆さんと協力いただいて活用していただいているのは大変にありがたいことだが、今回本協議会でお諮りしたいのは、今は森のようちえんさんの使用面積と使用日に応じて賃料を払っていただいているという状態です。これは当初は森のようちえんさんの地域での活動実態がなく、また公の施設を地域の特定団体に預けるということが条例上困難ということで、使用料をいただいてお貸しするというところまでしか行けなかったということがある。そういったことや水道光熱費の問題もあり、現在もログハウスなどの建物もあるのに自由には使えない。にもかかわらず、市では管理施設でもあるのでセキュリティシステムを掛けたりといったこともしており、年60万円程度の予算をかけている。これまで森のようちえんが来ていただけるまでの数年間は、全く何も地元の為にもなっていないにもかかわらず60数万円が無駄になっていたという状況だった。これについては地域の中で何か受け皿を作っていただき、そこに管理運営を委ねることができればと考えている。指定管理なので少し状況は異なるが、柳本駅舎の管理は柳本町の役員さんや活性化に取り組んでいただいている団体のメンバーで協議会を作っていただき、そこに随意契約で指定管理という形で管理をお願いしている。福住では福祉センターを廃止した際に地域の皆様からの要望もあり、一部管理をお預けするというのを当時のこのまちづくり協議会で議論して決定したという経緯がある。キャンプ場については椽にそのままお願いするのか、又は新しい受け皿を何か作っていただいて、そこに現在の森のようちえんさんも含めながら運営をしていただくのか、いろいろなやり方はあるかと思うが、我々としてはこれ以上予算を使うことなく施設を管理いただける状況になるのではないかという期待がある。もちろん議会にはご説明しなければならないが、どうだろうか。

椽 藤尾さん

椽の中でもそんな風になったらいいなという話はしていたが、自分たちもまだ昨年の6月から始めたばかりの団体で、椽の団体自体の整備を進めなければならないと思っている。もしそういう受け皿になれるような団体に整理ができれば、是非とも自分たちで整備をさせて頂きたいと思う。

会 長

我々としては、完全放置、自然に任せる状態だったので、山田、下山田のみなさんとの関係

において、そんな使われ方は困るということにさえならなければ、ここまでやっていただかないといけないというものはほぼ何もない。ただ、やはり運営していただくにあたって、そこで危険なことが行われていたとなると困るので、その辺りは責任を持っていただくことは必要かと思う。

委員

キャンプ場が廃止になって、その後天理市の管理になり入口の草刈りなど整備をお願いしたが、そのまま何もしなかった。

会長

本当ならば市の施設なので、閉めた状態でもご迷惑をおかけしない範囲で手を入れてほしいというのが地元としての意見かなと思うが、現状予算以上のことができる余裕が本当はない。そこからすると、有志メンバーと地域のみなさんが中心になって、全体ではないにしても活用されていった方が、今よりは手は入るだろう。今回、私もまだ直には見させていただいているが、写真を見る限りにおいても相当の違いがあると思うので、そこで一定の活動を行われ、また他の方も使いたいなど良い循環になってきたら、我々も何かしらのことをする可能性もゼロではない。ただ、今のままだと最低限の草刈りだけで、これ以上手を入れる可能性はない。やはり人が入らないということは空き家と同じでそれだけ目が行き届かなくなるので、どんどん悪い方向へいくということからすると、我々としては地域のみなさんが主軸になった団体で、地域のご理解が得られる形での再活用というのを図っていければと思っている。ぜひ前向きにご協力をいただけたら。

今日すぐに即決しようとは思っていないが、やってもいいということであれば、我々としても前向きな話し合いをしていくという方向性だけでもご理解いただきたい。実際そうするかどうかは、最終山田のみなさんにご理解いただけるかどうかということだと思う。議会の方は関心のある方も多いと思うので、また具体的にこうなっていくということになればご説明する。別途、今お使いのみなさんと継続協議して、次回の街づくり協議会までにどういう方向性があるかということを変更して協議をさせていただきたい。

(2) 地域公共交通について

事務局

- ・コミュニティバスの運行計画について

会長

タウンミーティングでも高原地域に何とかコミュバスをというお話をいただいていたなかで、今回再編案を考えさせていただいた。ルートの詳細については調整中だが、地元の負担としてはだいぶ軽減されると思う。教育的効果からすると、見守りのみなさんと一緒に歩いてくるといっても非常に良いと思っている部分もあるが、無理なく続けていくということからすると、このような形を考えている。今の路線バスに比べれば料金的にも利用しやすいと思う。

委員

天理発山田行のバスの一本目が9時代ということだが、これがもう少し早くなったらコスモス分団をここに乗せることも可能ではないか。

事務局

降りる便に苜原から乗られる方がおられるので、バス1台で運行するとその時間帯に合わせるのがなかなか難しい。

会長

基本の考え方としては、山の辺校区と丹波市校区の、苜原より下手の中山間のみなさんが路線バスで通学されており、その通学を保障しなければいけないため、時間帯というのもあまり変えられない。経費の関係から1台でフル稼働するという形になっているので、少しコスモス分団の子どもにとっては間に合わないのと、人数がこれだけ増えてくるとコミュバスではもう乗車できない。

交通の話は非常にご関心の方も多いと思うが、デマンドについても引き続き併用していただける。またこちらのダイヤの詳細など、具体的に決まれば校区の方を中心にご説明する。概ねの方向性としては本協議会としてご理解いただいたということによろしいですか。では、2番目の地域公共交通の議題としては継続的に、進展あり次第お知らせする。

(3)その他

・椽（たるき）大和高原移住促進プロジェクト in 天理について

椽 藤尾さん

森のようちえんが福住に来られる話をしているなかで、いい活動の場所がないかなということで、検討のうえで福住を選んでもらった。私も森のようちえんがどんな活動をしているか知らなかったのので、話を聞いたり自分で調べたところ、いくつか、こういった田舎というか自然の多いところで活動されている森のようちえんがある。日本では35年前に長野県が最初に森のようちえんを始め、そこから鳥取県や広島県等のちょっと田舎の方で活動されている。

先日、椽のメンバーで「まるたんぼう」という森のようちえんに視察に行った。そちらが大体10年くらい前からやっておられ、10年間で260名が移住されていると聞いた。街並みも、新しい家が増えているということではなく、空き家を活用され、移住者が増えている。ほかの地域の森のようちえんでも、子どもを預けたい家族が多く、またその側に住みたいと移住される方が多いそう。今回福住に森のようちえんが来たということで、1つのチャンスかなと思っている。そこで山田福住で声をかけて、移住しやすい街づくりをしようということで集まったのがこの椽という団体になる。今のところ空き家の整理や、街づくりに関心を持って話を聞きに行ったり、月1回集まって話し合いをしている。まだできたばかりで、目標というかどこを向いて活動していけばいいかというところも今整理している段階ではあるが、みなさんに協力いただけたらありがたいなと思っている。調べたところ、福住山田長滝地区に、空き家が50以

上あるということがわかっている。すぐに使える家もあればそうでないところもあり、そうでないところの方がはっきり言って多い。その家の持ち主の方に連絡をとろうとしてもなかなかとれない状況で、活用していくにしても天理市で空き家バンクというのが始まってはいるが、なかなか空き家を活用していくという動きが難しいところである。

活動を始めてから、移住したいという方が8組いると聞いていて、そのうちの2組については具体的に家も決めて話し合いを進めている。空き家の整理も僕たちだけではできないところもあり、できれば今後行政の方にも協力いただきたいなと思っている部分もいくつかあるので、また相談させていただく。もし可能であれば、売り買いの契約に必要な書類で市役所の中で集められるもの、例えば建築確認や農家組合の届出など、一点一点それぞれで取りに行くのは手間がかかるので、空き家バンクに登録してある家であれば、一括して提供できるシステムを作るだとか、そういったシステムがあれば話の進み方が変わってくると思うので、一度検討していただきたい。恐らく空き家バンクに登録されていれば売り買いの話もしやすい。僕たちが地元を回って空き家の持ち主と話し合いを進めていくなかでも、空き家バンクには載せたくないけれども顔見知りだからという方も多々おられる。そこでその方から同意書なり何なりをもらえたら、必要書類をうちの団体に提供していただけるということも良ければ考えていただきたい。

事務局

貴重なご意見をいただいた。同意書等あれば多少は融通が利くかなと思うが、基本的に個人の書類なので、空き家バンクが収集したりというのはある意味ハードルが上がるのかなと思うが、おっしゃっている同意書や委任状とかいうのがあればいけるかと。天理市の空き家バンクは普通で流通できるものももちろん、流通しがたい物件についても登録いただき、全国のみなさんにそこを見て入ってきていただきやすい仕組みを作っている。椽のみなさんと空き家バンクは同じようなことをやっているところもあり、協力してやっていけたらと思うので、よろしくお願ひしたい。

会 長

椽の活動については一度区長会の方でもお話させていただいたかと思う。最初の小規模特認校のところからずっと繋がっているが、やはり移住定住を進めて実際に福住に住んでいただく方を増やしていくということが、次世代のみなさんに帰ってきていただく措置として非常に大事な取り組みと思ってやっている。地域公共交通もそうだが、どんどん人口が減っていってしまうと、我々も公共のサービスを提供できる幅というのが狭くなっていってしまう。そんななかで、ようやく高原地区に移りたいという方が具体的に出てきたなと思っている。椽を作っていただくにあたって中島さんとお話しさせていただいた際に、これまでだったら東京や大阪で移住フェア等に参加していたが、そこでブース作っていても仕方がないと、何人が本当に關心を持ってここに来てくれるんだと。それよりも、移住者にとって難しいのは、地域のみなさんとどう上手くコミュニケーションがとれるかということなので、藤尾さんのような地域の中の

有志と、実際に移ってこられた方を繋いで上手くいくような取り組みが始動すればということを進めている。8組中2組が具体的な話がということだが、残りの6組のみなさんについてはまだこれといういい物件に出会えていないということ。外見的に空き家と思われるものも、売ったり貸したりしていいという案件ばかりではないので、残念ながら今来たい方がいるのに、それを地域の中で受け止めきれていないような状況かと思っている。市の中で、別途空き家対策をやっているが、移住定住というプラスの要素よりも、壊れてきて隣家にご迷惑がかかるだとか、このままだと道が危険だとか、衛生的に何とかしろだとか、ネガティブなお話の方がむしろ多くなっている。まだうちの市は代執行までいった案件はないが、そういった特定空き家も議論していかなくてはいけないというのが実際出つつある。利活用できるうちに上手く利活用できればいいが、今お住まいになっている周りのみなさんにとって、衛生面でも治安面でも迷惑になってくのが空き家である。しかも数年締め切った状態だとすぐにそういう状態になるので、今お住まいのみなさんが安心して住み続けるためにも、上手く空き家の利活用というのできてくれば一番ありがたいと思う。うちも固定資産税のお知らせをする際に、こういう空き家バンクの登録があるという案内は入れ込んでいます。

事務局

送ってすぐは電話がかかってくるが、なかなか売り買いというところまではこぎ着けられていない。

会長

なので、今お子さんだったりお孫さんだったり兄弟だったり管理してるケースは家によって違うと思うが、地域のみなさんの繋がりの中でこれなら試してみたら、という形で地域全体の雰囲気が変わるかが、非常に大きな節目かなと思っている。空き家バンクの利用勝手については、また別途時間を作って、どういうことをやればいいのかということのうちも改善したいと思う。この椽だとか移住定住促進はやらなくても困らない活動ではないということは、次のタウンミーティングの際に私も再度強調させていただきたい。ぜひこのプロジェクトで一人でも二人でも多くの方に福住に来ていただいて、コスモス分団の方が増えても、福住の子どもの率が一様に保たれているという理想的な姿になるようにしたい。

・高原地区街づくり基本計画について

事務局

原案について本日添付はないが、今回お話しした、福住中学校の利活用についてというのが、高原地区のまちづくりの計画の中でも大きな柱になってくると思うので、そちらの方も加えながら、今後ご報告をさせていただければと思う。

会長

この基本計画とは何かというと、我々が今後やっていく色々な街づくり、この高原の中の取り組みを、県市が連携してやっていく形になるので、今日は村井所長さんもお越したが、ぜひ

ともよろしくお願ひしたい。

それでは我々と地域との関係では、直近2月末から3月にかけて、まず福住小学校に中学校を入れ込んだ小中一貫についての説明会と利活用の方向性を一度共有させていただき、具体的な動きがでてきたころにこの街づくり協議会を開催し、みなさんにもご理解をいただけたらと思う。今日は長時間ありがとうございました。

5. 閉会 - 20:10 -